



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス
コード番号 6419 URL <https://www.mars-ghd.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）松波 明宏
問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）高橋 丈治 TEL 03-3352-8555
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 2025年12月10日
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	16,758	△34.4	4,795	△40.0	5,368	△36.6	3,639	△29.0
2025年3月期中間期	25,552	47.3	7,996	37.2	8,470	34.3	5,124	17.6

（注）包括利益 2026年3月期中間期 4,696百万円（△9.1％） 2025年3月期中間期 5,165百万円（△20.4％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	197.31	—
2025年3月期中間期	281.58	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年3月期中間期	89,755	81,591	90.9	4,421.15
2025年3月期	87,000	78,230	89.9	4,241.83

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 81,591百万円 2025年3月期 78,230百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	120.00	—	75.00	195.00
2026年3月期	—	75.00			
2026年3月期（予想）			—	75.00	150.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2025年3月期における第2四半期末配当金には、創立50周年記念配当が50円含まれております。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	37,500	△11.2	10,700	△13.2	11,500	△12.1	7,800	△10.5

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	22,720,000株	2025年3月期	22,720,000株
-------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年3月期中間期	4,265,265株	2025年3月期	4,277,415株
-------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (中間期)

2026年3月期中間期	18,445,553株	2025年3月期中間期	18,199,024株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や好調なインバウンド需要を背景に緩やかな回復基調が続く一方で、継続的な物価の上昇により個人消費が落ち込むリスクが高まりつつあります。また、地政学的リスクが続いていることや米国では通商政策による景気の下振れリスクが高まっていることから、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループはアミューズメント関連事業、スマートソリューション関連事業、ホテル・レストラン関連事業の各事業を通じてお客様の「満足」を勝ち取るために新たな付加価値の追求をまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高167億58百万円（前年同期比34.4%減）、営業利益47億95百万円（同40.0%減）、経常利益53億68百万円（同36.6%減）、親会社株主に帰属する中間純利益36億39百万円（同29.0%減）となり、予算比では売上高が若干の未達となったものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益については予算を上回りました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

[アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主要販売先であるパチンコ業界では、人件費や光熱費の高騰、スマート遊技機を含む設備コストの増加により、ホール経営は厳しい状況が続いております。また、大手チェーンを中心としたM&Aが加速し、業界の二極化がより鮮明となっております。その一方で、スマート遊技機は着実に普及しており、減少傾向にあった参加人口は持ち直しの兆しを見せております。更にスマートパチスロは6月から「ボーナストリガー」を搭載した機種、スマートパチンコにおいては7月から「ラッキートリガー3.0プラス」を搭載した機種の導入が始まりました。多彩なゲーム性を有する機種に注目が集まり、今後のホールの集客力向上やスマート遊技機の拡大への期待感が高まりつつあります。

このような市場環境の中、当社グループは、「EVOALL（エヴォール）シリーズ」を中心とした豊富なラインナップを武器にトータルシステムでの提案・販売に注力しました。9月にはホール関係者向けのWEBセミナーを開催し、遊技機市場のトレンドや当社システムの活用事例を紹介してきました。EVOALLシリーズは、スマート遊技機対応ユニット、セルフ交換機、POSシステム、クラウドサービス等で構成され、ホールの収益性向上と顧客満足度向上に寄与するシステムとして、導入を推し進めてまいりました。

当中間連結会計期間におけるプリペイドカードシステム（パーソナルやスマート遊技機対応ユニットを含む）の売上実績は9店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,393店舗（市場シェア23.8%）となりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、127億円（前年同期比41.4%減）、セグメント利益は47億84百万円（同39.8%減）となりました。

[スマートソリューション関連事業]

主要販売先である自動認識システム業界は、バーコードやRFIDを活用した製品トレーサビリティや在庫管理の効率化により、小売業、製造業、物流業、医療分野等の幅広い領域での導入が進んでおります。また、近年はAIやIoTとの連携による自動化が進展し、市場の更なる成長が期待されております。

当社子会社である株式会社マーストークンソリューションでは、製造・物流・医療領域を中心に自動認識事業とX線事業を推し進めるとともに、AI画像認識システム「VisAI（ビズアイ）シリーズ」に代表されるAIやIoT技術を活用した製品・ソリューションの開発・販売に注力してまいりました。また、健診プラットフォームサービス「macmo（マクモ）」は拡販に努め、利用者数が延べ180万人を超えるプラットフォームに成長してきており、今後更なる利用者の拡大が見込まれています。

当社子会社の株式会社マースウインテックでは、IoT対応の冷蔵物販自販機や無人チェックイン端末等、省人化・無人化を実現する「Infinity Station（インフィニティストーション）シリーズ」の開発・販売を推進してまいりました。中でも、冷蔵ロッカー型DX自販機「COLD+」は、食品・飲料だけでなく生鮮食品や生花等の商品を取り扱うことができ、用途にあった提案販売により導入が進みました。

この結果、スマートソリューション関連事業の売上高は、27億53百万円（前年同期比3.9%増）、セグメント利益は2億62百万円（同20.3%増）となりました。

[ホテル・レストラン関連事業]

ホテル業界及び外食業界においては、円安の継続を背景としたインバウンド需要の拡大に加え、大阪・関西万博などの大型イベント効果や国内観光・ビジネス需要の回復が追い風となり、宿泊・外食ともに堅調に推移しています。一方で、深刻化する人手不足や人件費の上昇、物価高に伴う食材・エネルギーコストの増加に加え、主要観光地におけるオーバーツーリズムへの対応等が課題となっております。

このような状況の中、「マースガーデンホテル博多」ではJR博多駅から徒歩1分という好立地を活かし、ビジネス客をターゲットとした販売戦略を展開してまいりました。また、食事プランの充実を図り、ファミリー層やインバウンド需要を取り込んでまいりました。

2025年10月10日に開業15周年を迎えた「マースガーデンウッド御殿場」では、7月より新たなテレビCMの放映を開始し、ブランド力と認知度の向上を図るとともに、15周年イベントや限定宿泊プランを展開いたしました。

レストラン事業では、東京・銀座エリアの「銀明翠GINZA」「銀座松月」を中心に、高級食材を用いた季節限定メニューを販売し、高付加価値な食体験を提供してまいりました。

この結果、ホテル・レストラン関連事業の売上高は、13億4百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益は18百万円（同349.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当中間連結会計期間末の総資産は897億55百万円となり、前連結会計年度末と比較して27億54百万円増加いたしました。

流動資産は528億65百万円となり、前連結会計年度末と比較して8億61百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、現金及び預金が25億36百万円増加し389億10百万円となりました。

固定資産は368億89百万円となり、前連結会計年度末と比較して18億93百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、投資有価証券が16億72百万円増加し177億85百万円となりました。

流動負債は49億55百万円となり、前連結会計年度末と比較して10億40百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払消費税が9億97百万円減少し2億26百万円となりました。

固定負債は32億9百万円となり、前連結会計年度末と比較して4億34百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、繰延税金負債が3億67百万円増加し12億64百万円となりました。

純資産は815億91百万円となり、前連結会計年度末と比較して33億60百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が22億56百万円増加し652億48百万円、その他有価証券評価差額金が10億48百万円増加し64億93百万円となりました。

自己資本比率は90.9%となり、前連結会計年度末と比較して1.0ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は389億10百万円となり、前連結会計年度末と比較して25億36百万円増加いたしました。

当中間連結会計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は47億73百万円の収入（前年同期は68億12百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益53億68百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は8億54百万円の支出（前年同期は11億68百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出5億89百万円、投資有価証券の取得による支出2億21百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は13億82百万円の支出（前年同期は8億58百万円の支出）となりました。主な要因は、配当金の支払額13億82百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,373,416	38,910,113
受取手形及び売掛金	4,205,323	3,406,424
リース債権及びリース投資資産	329,870	298,166
有価証券	350,120	350,995
商品及び製品	4,632,978	4,199,132
仕掛品	234,076	246,376
原材料及び貯蔵品	4,052,318	3,537,626
その他	1,887,903	1,917,459
貸倒引当金	△61,224	△302
流動資産合計	52,004,781	52,865,990
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,791,797	5,866,126
土地	10,073,054	10,448,417
その他(純額)	407,874	388,601
有形固定資産合計	16,272,727	16,703,145
無形固定資産	470,780	544,010
投資その他の資産		
投資有価証券	16,113,027	17,785,066
その他	2,344,844	2,061,964
貸倒引当金	△205,264	△204,494
投資その他の資産合計	18,252,606	19,642,536
固定資産合計	34,996,114	36,889,691
資産合計	87,000,896	89,755,682
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,627,607	1,495,423
リース債務	182,266	199,669
未払法人税等	1,783,724	1,859,737
賞与引当金	490,334	492,550
その他	1,912,346	908,144
流動負債合計	5,996,279	4,955,524
固定負債		
リース債務	362,315	387,326
役員退職慰労引当金	181,335	185,095
退職給付に係る負債	307,889	321,839
資産除去債務	62,387	62,627
その他	1,860,427	2,252,148
固定負債合計	2,774,355	3,209,036
負債合計	8,770,634	8,164,561

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	10,286,972	10,301,956
利益剰余金	62,991,949	65,248,160
自己株式	△8,513,509	△8,480,469
株主資本合計	72,699,512	75,003,746
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,444,926	6,493,845
退職給付に係る調整累計額	85,822	93,528
その他の包括利益累計額合計	5,530,749	6,587,373
純資産合計	78,230,262	81,591,120
負債純資産合計	87,000,896	89,755,682

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	25,552,506	16,758,445
売上原価	13,340,283	7,791,083
売上総利益	12,212,223	8,967,362
販売費及び一般管理費	4,215,866	4,171,379
営業利益	7,996,356	4,795,983
営業外収益		
受取配当金	447,210	417,890
その他	38,845	154,215
営業外収益合計	486,055	572,105
営業外費用		
為替差損	12,282	52
営業外費用合計	12,282	52
経常利益	8,470,129	5,368,035
特別利益		
投資有価証券売却益	27,194	—
特別利益合計	27,194	—
特別損失		
投資有価証券評価損	964,955	—
特別損失合計	964,955	—
税金等調整前中間純利益	7,532,368	5,368,035
法人税、住民税及び事業税	2,347,038	1,778,407
法人税等調整額	60,780	△49,775
法人税等合計	2,407,819	1,728,631
中間純利益	5,124,549	3,639,404
親会社株主に帰属する中間純利益	5,124,549	3,639,404

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	5,124,549	3,639,404
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,705	1,048,918
退職給付に係る調整額	△7,468	7,706
その他の包括利益合計	41,237	1,056,624
中間包括利益	5,165,786	4,696,028
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	5,165,786	4,696,028

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	7,532,368	5,368,035
減価償却費	347,053	274,953
引当金の増減額(△は減少)	△241,021	△55,715
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△8,737	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	13,949
受取利息及び受取配当金	△447,960	△428,187
投資事業組合運用損益(△は益)	△2,118	△2,099
投資有価証券売却損益(△は益)	△27,194	—
投資有価証券評価損益(△は益)	964,955	—
売上債権の増減額(△は増加)	555,447	798,899
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	△52,000	△12,441
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,826,657	936,238
営業貸付金の増減額(△は増加)	50,514	△92,366
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,202,437	△132,184
リース債務の増減額(△は減少)	81,051	42,413
その他	291,427	△730,364
小計	9,668,006	5,981,131
利息及び配当金の受取額	447,960	428,187
法人税等の支払額	△3,303,604	△1,635,702
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,812,362	4,773,616
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△748,174	△589,781
投資有価証券の取得による支出	△419,830	△221,856
投資有価証券の売却による収入	56,872	12,225
その他	△57,109	△55,392
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,168,242	△854,804
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の売却による収入	760,898	—
配当金の支払額	△1,610,448	△1,382,120
その他	△9,250	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△858,800	△1,382,120
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14,287	5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,771,032	2,536,697
現金及び現金同等物の期首残高	29,353,869	36,373,416
現金及び現金同等物の中間期末残高	34,124,901	38,910,113

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	スマート ソリューション 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	21,674,011	2,650,852	1,227,643	25,552,506	—	25,552,506
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	269,205	36,379	22,337	327,921	△327,921	—
計	21,943,216	2,687,231	1,249,980	25,880,428	△327,921	25,552,506
セグメント利益	7,953,688	218,283	4,111	8,176,083	△179,726	7,996,356

(注) 1. セグメント利益の調整額△179,726千円には、セグメント間取引消去6,974千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等、△186,701千円が含まれております。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自2025年4月1日 至2025年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	スマート ソリューション 関連事業	ホテル・ レストラン 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	12,700,478	2,753,910	1,304,055	16,758,445	—	16,758,445
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	218,040	17,248	16,664	251,953	△251,953	—
計	12,918,519	2,771,159	1,320,720	17,010,399	△251,953	16,758,445
セグメント利益	4,784,966	262,537	18,479	5,065,982	△269,999	4,795,983

(注) 1. セグメント利益の調整額△269,999千円には、セグメント間取引消去3,920千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用等、△273,920千円が含まれております。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。